

ヨシイちゃんのひとりごと

公私無分別混合症候群 (シンドローム) 煎じ薬提案

私がファミマのレジで並ぶ姿を見て、お客さんから「何で買わはるの？」と怪訝な顔をされるのが度々あります。

私は、いつものことで当然と思うのですが変わりますか？。多分「貴方は経営者だから、自分の使う分くらい買う必要は無いやん？」と思われるのでしょうか。

世間ではそれが常識なのかも知れませんが、私にはそれが非常識なのです。

私が父の経営していた「酒問

6/11(日) CD「愛~Haemony」発売記念ライブ・楽々ホールで開催



当日・楽々ホールライブの写真



屋山谷本店」に従事したきっかけは、個人経営の店が破産寸前状態になり、資本金500万円の「株式会社酒谷本店」設立、債権者が半額出資と一部債権棚上げの支援を得てスタートが決まったからです。事業不振は、程度を越えた父の「公私混同」も遠因の一つでした。債権者に迷惑を掛けた会社であるからと給料を最低に、会社と個人を区別し混同しないを信条に社業に参加しました。

それから52年、仕事や立場、地位は色々変わり、報酬額は変えましたが、他の信条は今も同じです。

幼い子どもへのいとおしさや個性の大切さを歌で表現しようとする主婦3人グループが「ヨシイちゃん」と名のバンドを結成。O作成発売記念ライブを開いた。そのTV番組「ぐるぐると関西」で紹介され楽々ホールは賑わった。メンバーの方々から感想が寄せられた。また、「ヨシイちゃん」友人の絵本作家松原あけ美さんから当日の募金感謝の文を頂戴しました。

Yuka 最高に楽しい一日です。くすくすでき、あの場にいられた皆さんに心から感謝です。

経営をご指導を下さっている公認会計士さんから、「社長の職務で必要なものは当然経費で認められ、節税にもなる」と幾度も助言されました。そのことは充分承知しながら、1回でもそうすると、自分の弱い性格からズルズルとはまり込む気がして今も厳守事項と決め、店の商品でもお客様と同じ値段で買っているのです。

わが社の交際費に料理屋、バーやクラブの支払い、旅費交通費にタクシー料金支出が全く無いことに法人税調査にきた税務署員はいつも驚き桃の木です。最近では営業成績悪化で税務署からも捨てられ状態ですが、その始

あたたかな雰囲気の中で、いっぱいエネルギーを頂きました。これからも色々なところで皆さんとお会いできること、心から楽しみにしています。

Satsuki 初めてのライブに緊張しましたが皆さんの優しい笑顔に救われました。子守唄では沢山の熱い涙を感じました。これから日常のなかで、皆がほつとできる時を作れるように活動し続けたいと思います。感謝とともに。

松原 あけ美 今回ほど、会場との一体感を感じた事がなく、朗読をさせて頂いているときみなさんの優しい目とあうたびに言葉がつまりました。

スタッフの方の温もりを感じ、本当にあの時あの場所にいれた事に感謝しています。

七月二十一日は 土用の丑の日

丑の日とは、災難を受けやすい日、その丑の方向を護る玄武という神が黒いので、黒いものを食べる「まじないが考えられたとか？。それにヒントを得たのかどうかは判らないが、安政4年夏にウナギが売れず困っていたのを知り蘭学者平賀源内が「今日は土用の丑」と書いてやったところ、物知りの源内のことならと江戸中評判になりウナギが爆発的に売れたという。二百年以上前のCM今もなお通用しているのは「健康と旨いものに目が無い」今昔変わらない人間のサガなのだろうか？

平賀源内のウナギCMは「石磨にわれ申す 夏瘦せに 良しといふ物ぞ 鰻取り食せ」という万葉集が種元だそう。我ファミリマートサカタ二京阪七条店は昨年それに（人間のサガ）にのり、「うな重」など会員さんに沢山買って戴いた。「柳の下にドジョウは二匹いない」というが、会員様は決してドジョウではない「チラシ」を同封した今年は、「倍」のお買い求め有りと信じてるのであります。

第八回・楽々落語会 八月三十一日(木)開催 全席前売限定・ウナギのチラシ裏面に注目

寄稿・投稿

この欄は皆様用のスペースです。ご投稿寄稿をお待ちしています。匿名も可

心が目覚める

生き方問答

紹介文・(訳者) 井上朋子

「夫が毎晩お酒を飲んで遅く帰宅する... たえばこんな悩みがある時、妻はどうするでしょうか?友人に悩みをうちあけて「それはご主人が悪い」と言われたら、「いい友達だ。相談してよかった」と思つてしよう。

もし、「あなたにもどこが悪いところがあるんじゃないの?」などと言われたら、「私のことをわかつてくれない。話すんじゃないかった」と友人を恨むかもしれません。

しかし、悩みがさらに深刻になり、「誰が悪い」ということでは片付かなくなつて、自分のところをどう扱うかが本質的な問題だと感じた時、その心の持ち方について方向を示してくれるものを求めるのではないでしょ



「心が目覚める 生き方問答」法輪 著 井上朋子訳・地湧社

つか。

この本は、韓国の法輪和尚と言つ坊さんが、信者を集めて「即問即説」の法会(ほうえ)をした時の記録をまとめたものです。「即問即説」というのは、法堂に集まつた信者さんたちからその場で出された質問に、法師がその場で答えを返すというもので、昔お釈迦様が人々の問にわけるように答えられた、という説法伝統を踏まえたもので

質問の内容は、夫婦や家族間のもめごと、職場や学校での人間関係、自分の性格や生き方についての悩みなど、誰もが持つであろう日常の悩みが多くを占めています。

荒城の月

酒谷佳子



福山に住む夫の母が亡くなった。1923年生まれ、数え年の79歳。昨年暮れから体調を崩し老人病院に入院していたが肺炎を併発してのことだった。京都の裕福な家に生まれた一人っ子だが、両親が早く亡くなり、17歳の時すでに一人息子のある夫の父親と結婚、3人の子を残産んだ後、子どもたちを残して離婚。再婚して福山に移り住ん

冒頭の妻の悩みに対して法輪和尚は、「夫がお酒を飲んで遅く帰宅する時、夫があなたを怒らせるのでしようか、あなたが自分で腹を立てているのでしようか?」と問いかけ「もちろん、夫が私を怒らせるのです」と答える相手に、「では、つきを見て涙する時、月が人を悲しませるのでしようか、人が月を見て悲しむのでしようか?」と続けます。「心がすつと軽くなる生き方を、人々の悩みに答える形で具体的に示した本書は仏教の「執着を捨てよ」という教えは日常生活においてこのように活かせるのだ、ということをわかりやすく教えてくれます。(本は1890円書店で販売中)

だのは35年ほど前のことだという。神主だった再婚相手も20年前に亡くなり、それからずっと義母はひとりで陰陽石神社を守ってきた。いつも朗らかで、苦労しているくせにお嬢さんの気分が抜けず、お洒落で、いいものが好きで、本人にいわせれば「浮いたか瓢箪」のようにいきあたりばったり、後先を考えず今を楽しむような人だった。今まではそれほど頻繁に訪れることもなかった福山に、夫や

私、2人の義姉たちはこの半年間、入れかわり立ちかわりに通うことになった。しかし、だれも臨終には立ち会えなかった。京都に帰りたいとは一言ももらさず、だれの手も煩わさず、6月17日の早朝、皆が駆けつけののを待たず、義母は逝つた。私の家族と義兄、義姉ふたりのごくわずかな親族と、それよりもはるかに沢山の信者さんたちに囲まれたお葬式の最中、大雨が降り出した。お経がきこえないぐらいの雨だ。火葬場について止まず、雨の音に混じつてウグイスとカラスが競つように啼く声が聞こえた。今日のお客(というつのか?)は、義母だけとみえて、待合室には私たちの関係者が20人ばかりいるだけだ。お骨になるまで一時間半、みんなはとりとめなくお茶をのんだり、雑談をしたりして待ち始めた。

その間にも、雨はますますひどくなる。義母が号泣しているのだらうか、と思つていた時、だれかが窓際に有つたTVをつけた。ニュースのテロップが流れている。広島や呉に大雨警報が出ている。そつち方面から来ている人もあるらしく、不安げに画面を覗いている。と、その時「荒城の月」のメロディが流れてきた。夫がTVに駆けより、ボリウムを上げた。画面にヴァイオリンを弾く女性が大きく写しになり、その弦から絞り出すような「荒城の月」が流れている。待合室の皆にざわめきがおこる。私は同行していた父に理由を話し、それを聞いた父もTVの前に飛んでいった。義母は数年前、私に遺言と称した手紙を託した。さまざまの貴重品の場所や、祭壇の手配、保険や通帳などの事務的なことに加えて、「お経の代わりにみんなに『荒城の月』を歌つてほしい」と書かれていた。手紙の中身はほとんど忘れていたが「荒城の月」のことだけはしっかり覚えていた。しかしお経を削るわけにもいかず、お通夜だけ歌つて、お葬式には小さくテープを流すにとどまった。義母はそれに未練があつたのだらうか、TVからはしみるようにきれいなヴァイオリンに合わせ、すすりなくような歌声が聞こえてくる。ヴァイオリンは千住真理子、歌っているのは八代亜紀である。どうやらNHKの番組らしい。ピアノも入って、くりかえし、くりかえし名残をどめでもするように「荒城の月」は続いた。「なんと、不思議なこともあるもんやのう」と父は感心し、「わしの葬式にはピアノを」

以下4ページに続く

酒屋で生きて 生かされて

第六話・敗戦直後から 自由販売まで

自由販売まで

兵隊や海外からの邦人引き揚げ帰国で国内人口は増えてきました。大蔵省は戦前「企業整備」の名で減らした酒屋を増やす方針をとります。(昭和22年?)
酒の配給を受ける窓口のお客様を30世帯?獲得した店に酒販売免許を改めて交付する形でした。当然「配給切符」獲得に熾烈な競争が起りました。我が店は300が集まらず、懇意な酒屋さんから、配給切符を廻してもらいヤット免許が継続できたのでした。醤油、味噌、塩、も同じ方法で配給できる店が認められました。

3ページから

『荒城の月』の続き

などいつている。
曲が終った途端、拍手が沸いた。火葬場で拍手が沸くのは珍しいのではないか。
雨は相変わらずひどかったが、みんなはほっとしたようにほえんでいる。それからまもなく義母はお骨になって戻ってきた。京都にひきとってあげればよかった、元気なうちにもっと頻りに様子を見に来ればよかった

昭和二三〜二四年になると実質的に配給制度は無くなったよです。酒卸を独占していた統制会社はなくなり、京都では日本酒類販売(日酒販)と京都酒販協同組合、松下商店京都支店のみ(?)、「甲卸」の免許で業務が出来ました。大蔵省は格付けに「甲・乙」がお好きで「焼酎も本格焼酎には「乙類」大量生産出来る連続蒸留機でできた「アルコール」を水割りした「焼酎」は「甲類」としています。父は、日酒販の下請けで「大和」大和四条下がると本町六丁目「荷捌所」を始めました。
昭和五年「乙卸酒卸免許制度」が出来て先ず朝日麦酒特約店としてビール卸免許、更に酒卸免許申請しました。酒卸になると、小売は出来ず飲食店営業も出来ないと言き、高校生だった私

あちこち旅行に連れてあげればよかった。・・・さまざま私たちの思いを察したのか、義母は見事に自分で演出して旅立った。
2001/6/20
(注)この文は、常務酒谷宗男の妻佳子が葬儀二日後に著したものです。
この出来事は偶然で片付けられない不思議なことです。同じ場面にいた私も似た感慨をもって、同年7月号「とんからりん」に

は反対をしました。父は「荷捌所の実績があるから大丈夫だ、免許も下りるかどうかわからないから申請する」と言いました。私自身には中間搾取する卸という業態に不安は有りましたが、十一月に「酒類乙卸販売免許」が東山区では私共を含め五店に下りました。許可時点で酒税納付方法は出荷した醸造元が酒税納付すると統一され「甲乙」の卸の区分はなくなりしました。
戦後の混乱は大分治まって来ても米不足は続き、酒醸造量は厳しく制限されていて酒は売り手市場、酒小売業と飲食店を廃業、マツダの自動三輪車を購入し、事務は親戚の小父さん店員は二名、外交店員二名で、ビールは朝日麦酒特約店、清酒菊正宗、富久娘、世界長、明け心、神聖、日出盛、焼酎は協和発酵

そのことを「嗚呼荒城の月」と題して載せました。
後、この文を読み、義母への想いと、心情をよりよく表現されているので、いつか「とんからりん」に載せたいと思っていました。前号には「生母」のことを載せましたので、私を七才から十七才まで、妹弟と共に育ててくれた我が義母の命日に、その美しかった笑顔を思い出しつつ書き込み掲載した次第です。

合成清酒は理研醱酵(利久)などを扱い酒卸営業開始しました。当時は、酒やビールは値段が高く、庶民には原料「薩摩芋」でアルコールを生成、水で薄めた「焼酎(甲)」「や」「酒粕を蒸留してつくる」「カストリ焼酎(乙)」ががすが良く売れました。清酒は有れば幾らでも飛ぶように売れ、父は滋賀、三重、岐阜などの酒蔵を訊ね清酒の仕入に専念し酒卸業は順調にスタートしました。(以下次号に続く)



開店当時お得意先に配った帆布製の酒屋袋。

昭和25年製で私にはル化トンよりに重宝し今もが重宝しています。

サカタ二友の会員を増やしたい!

サカタ二友の会は左のサービ
スついでに
知人・ご友人・ご近所の方
に参加をお勧めください。
年会費1200円ですが
ご損はさせません。
会員様サービス
入会・更新時と年度内
2回・五〇〇円買物券を進呈
毎月50円割引券を進呈
この券はファミマ、集西楽
サカタ二友で使用できます。
会員様価格での商品配達
試飲会、蔵見学、朝粥会
の会員割引有り。
2階の「集西楽サカタ二
」でお買物は1000円で1
ポイント、配達分は20
0円で1ポイント進呈。
300ポイントで300
円のサービスマン発行・登
録会員様はカードが無く
ても自動的ポイント加算
会員様には、情報紙
「とんからりん」や案内を
お届け。
未成年やご同業の方、当社
の都合で入会を断る場合有

第18回・朝粥食べておしゃべり会 06.6.18(日)朝9時~報告



毎月第三日曜日を定例として、朝粥食べておしゃべり会の18回目を開催しました。原
点を取り組まず、話をする人、話される人
は取り組まず、話をする人、話される人
えんわりなく集まると、話をする人、話される人
程度のご参加が、話をする人、話される人
ます。次回は7月16日(日)朝9時からです。
ご参加を待っています。

腹い姿い誘を(税理士)今
のてさでい天に聞き見せて戴きました。
底会ん心に向かっ加者本は始めは少
か場がえ笑参加者本は始めは少
ら全い見本は始めは少
大笑員の手本は始めは少
いそ本は始めは少
愉につご90歳なの
快なら披露の
朝れ露の
だて続
つ、